

令和8年度 岡山大学附属中学校経営計画書

I 本校の使命・役割

- 1 実験的・先導的な学校教育（地域の指導的・モデル的役割）＜中等普通教育＞
- 2 教育に関する大学・学部と連携した実践的研究＜教育研究＞
- 3 教育実習の実施（将来を担う教員の育成）＜教育実習＞

II 目指す生徒像

教育目標「自主自律 豊かな心で たくましく」を体現する生徒

- 個性を伸ばし、自ら学び続ける生徒
- 心身を鍛え、何事にも積極的に取り組む生徒
- 自ら判断し、正しく行動する生徒
- 互いの人格を尊重し、協調・奉仕する生徒

III 目指す学校像（1～4）、教職員像（ア～ウ）

- 1 生徒にとって学びがよいある学校
 - 2 教職員にとって働きがよいある学校
 - 3 国立大学附属学校の使命・役割を果たす学校
 - 4 学外、校外から存在意義を認められる学校
- ア「チーム附中」と「チーム担任制」を前提に、互いの良さを認め合い、組織として判断・対応ができる教職員
- イ 目標を明確にし、創意・工夫を凝らして教育活動の改善・充実を探究し続ける教職員
- ウ 国立大学附属学校の使命・役割、存在意義に基づき、何事にもあきらめない心と、自分の仕事に誇りを持って行動できる教職員

IV 令和8年度の重点目標

- 1 【中等普通教育の充実】生徒一人一人の資質・能力を育成する個別最適な学びと協働的な学びの充実
 - ア 資質・能力を高める指導とカリキュラムの充実、**納得感のある**評価のフィードバックの在り方を追究する。
 - イ 全ての生徒が**集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせて活躍する特別活動の在り方**を追究する。
 - ウ 生徒一人一人の特性や課題に応じた適切な指導・支援（特別支援教育、不登校対策）を充実させる。
 - エ **手帳アプリとAIドリルを活用してメタ認知・自己調整能力を高め、生徒一人一人に応じた指導を充実する。**
 - オ 生徒一人一人が興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じて課題を設定し、解決に向けて試行錯誤し協働しながら探究力を高める、**総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを推進する。**
 - カ 学校内外の学習活動において**生成AIの積極的な活用**によって資質・能力及び**情報活用能力を育成する。**
 - キ **公共の精神に基づいた規範意識の醸成を基盤とし、ICT活用の日常化に対応した「体系的な情報モラル教育」を推進するとともに、「未然防止・教育的相談」を軸とした積極的な生徒指導の充実を図る。**
- 2 【教育研究の推進】次期学習指導要領の改訂に資する、持続可能な教育研究の推進
 - ア 全教員が通年で教育課程について検討し迅速に実践するカリキュラム・マネジメントを引き続き推進し、教員一人一人が主体性と責任感をもって学校運営に参加する意識・意欲の更なる醸成を目指す。
 - イ 次期学習指導要領の改訂に資するよう、高校の総合的な探究の時間と小学校の総合的な学習の時間（PBL）を接続する中学校の総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを追究する。
 - ウ **単元計画の目標と評価を生徒・保護者・教員で最初に共有し、生徒が自分で成長を実感できる「見通しと振り返り」のサイクルの確立を目指し、継続的に追究する。**
 - エ ワークライフバランスの視点から、研究内容の質が高まる研究組織や発表会の在り方を検討・実践する。
 - オ 全国指導主事研修会や教職員支援機構が開催する研修、国立教育政策研究所が募集する研究課題に積極的に参加・応募し、国の教育施策・改革の動向を把握するとともに、参画・寄与する。
- 3 附属小との連携促進（一貫教育）、研究成果の還元・地域貢献の推進、校舎改修で**広がる**多様な学びの創造
 - ア 小中一貫教育の視点から、小中9年間を見通した総合的な学習の時間のカリキュラム検討を目指して**相互の授業研究会への参加や情報交換等を積極的に行う。**
 - イ 研究成果の公立学校・教育委員会・岡山大学等への提供、県市教育センターの研修への協力、中教研の研究への助言・協力、体験型教員研修の**積極的な**受け入れによる地域貢献を推進する。
 - ウ 教師としての資質・能力の向上による、教育実習における指導を充実する。
 - エ 保護者への適切な情報発信や連絡・相談、適切で丁寧な生徒指導による信頼関係を構築する。
 - オ 大学や教育振興会・同窓会との連携による学習環境及び施設・設備を充実させる。
 - カ **1・2号館の改修に伴い設置する「ラーニング・コモンズ」型の創造的な学習空間を想定した、教科横断的かつ多様な学びのスタイルを保証する授業づくりへと意識改革を図り、授業実践を行う。**
- 4 働き方改革の一層の推進による教育活動の改善・充実
 - ア 国立大学附属校の教職員としての適正な勤務と実績の向上に関する意識改革（業務の精選・効率化と重点化）
 - イ 勤務時間の適切な把握・管理（勤務記録方法の改善）
 - ウ 教職員の勤務の負担軽減に資する支援体制の整備
 - エ 会議・研修の勤務時間内への適切な位置付け
 - オ **休日部活動の外部委託の推進**

} 労働法制・文部科学省ガイドラインへの適応